2026 年　感謝箱献金のお献げ先のご紹介

サイディア･フラハ



ケニアにある子どもと女性を支援する NGO 団体。日本人の荒川氏とケニア人スタッフが共に、児童養護施設と地域の子どものための幼稚園、小・中学校を運営。貧困や病気で親を亡くし、預け先で虐待や育児放棄を受けた女の子を養護施設で預かり、養育と教育を行っている。将来の自立に向けて、相談しながら職業訓練も行う。

近年、荒川さんの働きを通して、アフリカに興味を持つ人々がボランティアとしてサイディア･フラハに滞在する間、荒川さんは「子どもたちと関わりを持つことを勧めている」と。

支援額　35 万円

アトゥトゥミャンマー

2021 年にミャンマーで起きた軍事クーデターに反対し、抗議するために東京に集まった在日ミャンマーの人たちの呼びかけから「ミャンマーを覚える祈りの会」は始まった。毎週金曜日の夜９時から Zoom で開催、280 回を迎えた。共同代表の日本バプテスト同盟の渡邊さゆり牧師とマキン サンサン アウン牧師からミャンマーの様子や活動報告を聞いた後、小さなグループで祈る。空爆が止み、故郷に戻って生活を取り戻せるように。子どもたちが安心して学校で学べますように。若者たちが笑顔で未来の夢を語れますように。教会が日本で暮らす人々の隣人となれますように。



アーメン　支援額　20 万円

国際子ども学校 ELCC 中部教区

名古屋学生青年センターは 2026 年３月に活動を休止。４月以降は「一般社団法人国際子ども学校 ELCC」として活動を引き継ぐ。これからも同じ場所で長年の歩みと理念を引き継ぎ、さらに、発展させていく。現在は地域の小・中学校へ通う道が開かれている。しかし、来日して間もない子どもたちは日本語がわからず、習慣も違うため学校に通うことを止めてしまうことがある。ELCC は公立学校へ適応するための「受け皿」、安心して過ごせる「居場所を提供し続けたい」。親が外国人労働者のため、月謝の支払いが困難となるため、子どもたちの学びの支援をお願いしたい。



支援額　20 万円

ムクウェゲ医師の社会啓発活動の支援 日本の NPO 法人リタコンゴを通じて

コンゴ民主共和国は鉱物資源に恵まれ、生活を快適で便利にするパソコン、スマホなどに必要なレアメタルも産出する。コンゴ東部にある産婦人科医ムクウェゲ医師が運営するパンジ病院で、性的暴力の被害を受けた女性と子どもは 23 年間で８万５千人にも上った。ムクウェゲ医師は住民から土地を奪うために性的暴力が武器とされていることに気づき、紛争鉱物問題の解決を世界に向けて訴え、ノーベル平和賞を受賞。2019 年に現地の事情に詳しい華井和代氏と米川正子氏が同医師の活動を支援するため、「リタコンゴ」を設立。鉱物資源と性的暴力の問題について現地調査や啓発活動などを行なう支援。



支援額　10 万円

地域支援団体　釜石支援センター望 東北教区

東日本大震災から 15 年、建物や道路が整備され、復興住宅で暮らすようになっても、震災前の大切な記憶、家族と暮らした家、地域の祭りやご近所の付き合い、大切な思い出を忘れることはない。震災後の日本聖公会釜石支援センターの働きを引き継ぐ代表の海老原氏は「入居者もボランティアの方々も高齢化が進む中でも、地域のコミュニティ作りをこれからもボランティアの方々とともに続けていきたい」。



支援額 10 万円

野宿者自立支援「夜回りチーム結」 沖縄教区

阪神淡路大震災後の神戸で野宿を余儀なくされていた沖縄出身の人々が、沖縄に戻って来られた。しかし、住むところも食べ物も無く、差別の中で生きておられた。行き場のない方々を支えていたのが、野宿者自立支援「夜回りチーム結」。その活動は 24 年目を迎えた。毎週木曜日、おにぎり２個、ゆで卵２個、カップラーメンとお湯を用意し、仲間と共に野宿者を訪ねている。橋の下や大きなお墓の傍などで雨風を避ける高齢者、病弱な方、孤立した方、身寄りがない方など 30 人を訪ねて命を支えながら、福音を届ける活動。



支援額　10 万円



全国の皆様から 2026 年度にお献げ頂いた感謝箱献金の合計は 166 万円でした。お献げ先については第 28（定期）総会後第 1 回会長会で審議され、今年は6団体へ。

◇2027 年度のお献げ先は、各教区婦人会，日聖会婦役員会，感謝箱献金事務局より議案提出され、第 28（定期）総会後第2回会長会で審議いたします。